（1）　（明治25年3月28日第3種郵便物認可・昭和24年2月17日運輸省特別扱示認第16号）　（日刊）

上毛新聞

上毛新聞社
郵便(0272)25－4341(代表)
電話(4)3343－4344
(編集)3343－4344
(販売)3343－4392
(出版)3343－
(制作)3343－
(業務)4363－
上毛新聞社　1989

県一は浄蔵寺（尾鳴）の大イチョウ

幹周3メートル以上は2600本

48%は寺社境内に

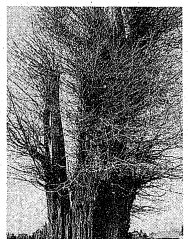
県の巨樹・巨木林調査

環境庁の委託を受けて、県林務部で前年度初めて実施した「巨樹・巨木林調査」の結果が二十七日まとまった。全国に残されている巨樹・巨木林の生態状況、人文的価値などを調べ（保全に役立てること）百日間で、地上から一・三メートルの高さの幹周が三メートル以上ある巨木が対象となっている。本県では、幹周十一メートルの「浄蔵寺の大イチョウ」（新田郡尾島町）をはじめ、幹周十メートル以上の巨樹が二本あったほか、幹周三メートル以上の巨木総数は約二千八百本になることがわかった。

順位	巨樹の通称	幹周	所在地	備考
1	浄蔵寺の大イチョウ	11.00	尾島町岩松	町指定天然記念物
2	原町の大ケヤキ	10.00	吾妻町原町	国指定天然記念物
	五郎の大スギ	10.00	松井田町	町指定天然記念物
4	矢立てスギ	9.77	榛名町榛名山	国指定天然記念物
5	親都神社の大ケヤキ	9.70	中之条町五反田	県指定天然記念物
	荏田神社の大イチョウ	9.70	沼田市井戸上町	県指定天然記念物
7	川田神社の大ケヤキ	9.50	沼田市下川田町	県指定天然記念物
8	雲国様地の大ケヤキ	8.70	渋川市上郷	県指定天然記念物
9	雲昌寺の大ケヤキ	8.50	昭和村川額	県指定天然記念物
	井野神社の大イチョウ	8.50	高崎市井野	市保存樹
	馬かくれスギ	8.50	沼田市上発知	市指定天然記念物
	丸沼・保安林内（カツラ）	8.50	片品村丸沼	――

巨樹調査順位表（単位はメートル）

（注）「株立ち木」（1株から幹が多数出ている木）を除く、単木の幹周比較

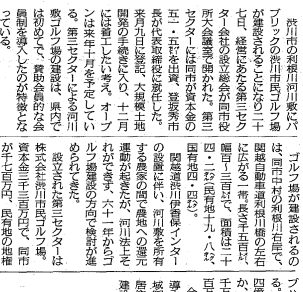


浄蔵寺の大イチョウ

調査は、環境庁の第四回自然環境保全基礎調査（六十三年度～六年度）の一つ。名目で調査を実施し、六月ごろまでには、全国の結果を集計することになっている。本県では、県自然環境調査研究会（会長・五味礼夫群大教授）の協力で調査を行った。

調査は、寺や神社の境内など県独立立っている幹周三メートル以上の巨樹のほか、同等の樹木を含む樹林、並木などについて調べた。その結果、単独の巨樹は六百五十三件、樹林百四十四件、並木十一件。それぞれに含まれる巨木の総数は三千五百九十二本（山間ヨウナンボクには、森来にアメリカに密航した人が別当三松井田町の「五郎の大スギ」（同一）など。原町の大ケヤキは補修のため、かつての十三メートルから減少している。逆に、従来七・六メートルとされていた勢多郡富士見村の「横室の大カヤ」は八・一メートルあることなどもわかった。

また、樹種別では、吾妻郡中之条町の「亀石（しゃべりいし）のモミ」（七・六メートル）や榛名山麓の「榛名の大カヤ」（八・一メートル）は全国でも上位にランクされるとみられている。このほか、群馬県の「アメリカシロヤナギ」（十三メートル）、次いで吾妻郡吾妻町の「原町のケヤキ」（十メートル）、確氷郡



渋川に市民ゴルフ場

利根河川敷　来年10月オープン

渋川市の利根川河川敷（八ブロックの渋川市民ゴルフ場）が建設されることになり、二十七日、経営の委託を受ける第三セクター会社（資本金六億円）が市役所会議室で開かれた。第三セクターには同市が資本金の五一・五％を出資、登坂発市長が代表取締役に選ばれた。来月五日に着工、大規模土地開発の手続きに入り、十二月には着工し、来年十月全面オープンは来年十月を予定している。第三セクターによる河川敷ゴルフ場の建設は、県内で初めてのケースとなる。

ゴルフ場が建設されるのは、同河口村の利根川河岸で、関越自動車道渋川橋の左右に広がる一帯。長さ七百五十メートル、経営の委託を受ける第三セクターは、同市役所会議室で開かれた。第三セクターには同市が資本金の五一・五％を出資、登坂発市長が代表取締役に選ばれた。

関越道渋川伊香保インターの西隣に位置し、河川敷を所有する農家の間で農地への還元問題が起きたが、同川原土地が買収されたことで、河川原土地は、第三セクターによる河川敷ゴルフ場建設の方向で検討が進められている。

設立される第三セクターは、同川原土地が一・二ヘクタール、同市が一・二ヘクタール、農協が四ヘクタールを出資し、資本金三千三百万円で、同市が千七百万円、民有地の地権者三十五人でつくる土地開発組合が三百万円、地元企業が三百万円出資、本は当面、市役所に置く。

ゴルフ場の規模は九ホール（八一・二ヘクタール）。このほか、隣接する雨有地にクラブハウスと駐車場を建設する。造成などにかかる費用は、同市が一億円、民有地の地権者組合が三千万円、資本金のほか、会員入会証金（一億七千万円）と債入金（一億七千万円）でまかなう。

会員入会保証金は会員制の関越道渋川伊香保インターの隣接地（約一万平方メートル）で、渋川地区広域市町村圏事務所もつ人工池の管理に使う。渋川地区広域市町村圏事務所もつ人工池の管理に使うもの。渋川地区広域市町村圏事務所もつ人工池の管理に使うもの。渋川地区広域市町村圏事務所もつ人工池の管理に使うもの。

五千五百円、会員はいずれも五千円。このほか、施設費（保険料、カート利用料、同用料、同入場料）として五百円がかかる。

入会者は、同市内の「雲国荘」（一八九九年）、百周年。雲国会も開かれて記念事業がにぎやかだ。勢多郡北橋村では八月三日の武典祭に講演を皮切りに、サマー・フェスティバルへ、花祭と、夏から秋かけて催しが続く▼その村でこれぞ最大の記念事業と、有識者の間から有名変更の声が起こっている。北橋を「きたたちばな」と正しく呼ぶ人は多いという。通称の「ほっきつ」が市民権を得てしまった。村は「橋村」と思いつつ、橋村がなくなったので「北」の字は自治を終えた。百年を機に新村名を「古万」と、一世紀を一というのが改名派の提案だ▼「ふたがが名前」と、ちょっぴり感慨深い。今や感性の時代。最近のネーミングでは、普通銀行への転換で改名した山陽相互の「トマト銀行」が大ヒットを放つ。トマトのキャラクターに入り通帳を求めて、県外からのお客も引列に加わり、預金量は初日だけで五百三十億円も増えた▼社長は山陽銀行の名義を変更することで近県の有力銀行住所、氏名が明らかになり、ごろが猛反対され、困り果てた末に「岡山はトマトの主産地」から、ごろ合わせ。

一方、情報公開の一環として、県庁・県民サービスセンターの窓口で、閲覧・貸し出しの利用者数は、昨年度の約二倍、請求件数は、約三倍。

県民生活に身近な保健生活部関係では、情報公開制度が発足した十月から